

2019 全然堂歳時記夏

【暑し】

18句

2019年8月17日 9行2段12ボ桐9

赤道の籬の外れし暑さかな 屋根の上の暑さを知らず蟻地獄
青々と青空炎ゆる暑さかな 水底に暑さ忘るる豆腐かな
平日も週末もなき暑さかな 暑し暑しと素麺すする印度人
真夏日は赤猛暑日は黒の地図柿の実の大暑に耐ふる緑色
踏切のかんかん照りの暑さかな 暑し暑しと詮なき事をいふ習ひ
外灯の点けつ放しの暑さかな ここ十日ほどが暑さの峠とも
アスファルト足跡のなき暑さかな 人の噂ほどは続かぬ暑さなれど
好投手の後ろを守る暑さかな 暗闇に団扇を探る暑さかな
裸婦像のブロンズ色の暑さかな 盆の月暑さ寂しくなりにけり



大暑・猛暑を含む

モ ニート エビ
2019 8 17

2019 全然堂歳時記 夏

【涼し】

20句

2019年8月18日発

10行2段12ボ 桐9

炎天も雲の中なら涼しかろ 一笑に付すといふこと涼しけれ
山あれば川の流れて涼しけれ 諳んじて九九を手玉の涼しさよ
寄つてみて大樹の陰の涼しさよ 黄の辛子みどりの山葵涼しけれ
青々と松と桜の涼しさよ 団扇絵の美人片手に夕涼み
わき水の汲めども尽きぬ涼しさよ 蚊遣火の紅一点の涼しさよ
旧家こそ昔ながらに涼しけれ 水底の栓を抜きたる涼しさよ
広間よりさらに涼しき大広間 しんしんと脱水の音月涼し
この網戸涼しさだけを通すなり 涼しさは今日の暑さの忘れ物
室外機涼しき部屋のすぐ外に 忘らるることも涼しと思ひけり
二人して浮世離れの涼しさよ めつきりといふ涼しさのきのふけふ



涼み・夏の月を含む

2019年8月18日

夏

旅に良し家居また良し薄暑かな見て楽し薄暑の街の人通り
 白雲の夜空に遊ぶ薄暑かな軽暖の街に薄暑の人通り
 通り雨薄暑疑ひなかりけり高校生に薄暑の町の狭さかな
 そよ風に吹かれ薄暑の旅へかな軽暖の男に荷物持たせては
 信号を軽く抜けたる薄暑かな花買うて薄暑の街を我がものに
 旅ゆけば薄暑の町のベーカリー友だちも出来て薄暑の下校の子
 薄暑なり銀座へ出れば画廊あり公園に木の椅子乾く薄暑かな
 軽暖のオープンカフェに人を待つハンガーの肩の荷軽き薄暑かな



peace!



はくしよ
 軽暖 けいだん

2023 7.8

空の色空色ならず梅雨間近 降りますなあ降るもんですなあ梅雨長し
傘立のなきアパートに梅雨来る 小止みとはなれど梅雨雲重く垂れ
立てかけて壁を濡らせり梅雨の傘 幽閉の山椒魚や梅雨暗し
玄関に梅雨のタオルと雑巾と 長梅雨に慄然たるかな落花生
宇宙船地球号梅雨前線へ 駅に食ふ熱きうどんや梅雨寒し
日本に通過儀礼の如く梅雨 暮れゆくや梅雨の入日は見えねども
降り方の緩急自在梅雨の日々 愚図愚図と梅雨の日暮の薄明り
図書館へ梅雨のお濠をまた曲る 梅雨湿りしてゐる我を湯に放つ
梅雨なれや傘の袋が落ちてをる 梅雨寒し厚き布団は暖かし
道路から梅雨の外階段上る 長梅雨の変な処に変な虫



つゆ・ばいり

モ
リードエフ
2019
6
15

2019 全然堂歳時記夏

【梅雨2】

20句

2019年6月22日発

10行2段12ボ桐9

五時起床空茫々と梅雨続く 梅雨の夜を寂しがらせよ金魚玉
持つて出る昨日の傘や梅雨暗し 沢山の足あるものが梅雨の夜に
苔寺の苔の切株梅雨深し 梅雨茸のによきによき生ゆる夜中かな
藤棚も梅雨の暗さに雫して 差すときも干すときもこれ梅雨の傘
梅雨憂しと蟻も蚯蚓も土の中 足元はまだひんやりと梅雨晴間
百合の黄の十四五本や梅雨の宴 傘立も玄関前に梅雨晴間
梅雨激しダンプは運転台高し 水たまりばしやばしやさせて梅雨晴間
梅雨の川みるみる土手を削りをる 草引けば土美しや梅雨晴間
梅雨出水畦道消えて恐ろしや よくできた奥さん梅雨の晴間かな
梅雨の夜を連なり出づる消防車 水を得て伸びゆく稲や梅雨明ける



つゆ・ばいう



2019
6.22

2023 全然堂歳時記夏

【梅雨3】

20句

2023年7月1日発

10行2段12ボ桐10

傘の骨ぐいと曲げたる梅雨入かな 赤に黄に傘や合羽や梅雨楽し
梅雨空のグラデーシヨンの濃きところ 荒梅雨の袋ぶらぶらランドセル
梅雨の日々梅雨曇りなる日を挟み 横にして傘をバサバサ梅雨の日々
時差呆けのやうな雲行く梅雨の日々 外で差し傘立に挿し梅雨の傘
水嵩を楽ししむ梅雨の大河なり 梅雨じめりしてゐるものへ扇風機
雨の字の中も雨ふり梅雨つづく 梅雨眠し老いたる猫の如くをる
蝶ひらり梅雨の影なき世界へと 右の頬に左の頬に梅雨の髯
梅雨深し昼は灯らぬネオン塔 青梅雨の稲まつすぐに立てりけり
梅雨深く書類に印を点じたる 玄関は靴の港や梅雨の夜
教室やあかあか梅雨の灯を点し 梅雨の夜の折紙の裏折りの鶴



peace!



つゆ

2023年7月1日発

Hi-uni 10B

2023 全然堂歳時記夏【雲の峰】 20句

2023年8月9日発 10行2段12ボ桐10

日本の海の守護神雲の峰 白飯はカレーに埋もれ雲の峰
ふるさとに入道雲のある限り ベンチャーズ・ビーチボーイズ雲の峰
峰雲の中で働く神仏宿題は粘土細工の雲の峰
また一入行者降りくる雲の峰 煙突の湯屋は廃れて雲の峰
善は白、正義は力、雲の峰 船の旅積乱雲も見飽きたり
虹よりも雷に親しき雲の峰 本土から遠き戦線雲の峰
峰雲や数多の雷を産み捨てて 空母対空母積乱雲真白
閻魔への供物の如し雲の峰 化けの皮剥がれ入道雲となる
太陽の彼方に続く雲の峰 天上へ入道雲ののしあがる
雲の峰見ゆるオープンカフェ香る 恐竜がずしんずしんと雲の峰



peace!



くものみね
積乱雲、
入道雲を含む

2023.8.9

2023 全然堂歳時記夏【打水】 20句

2023年7月9日発 10行2段12ボ桐10

打水を幾たび今日の暑さかな打水の余りは庭の箒にも
炎帝に敵はぬまでも水を打つ打水のたちまち乾く土の色
せめてもの打水を打ち重ねたり打水に片寄せられし泡の跡
石段の石のいきれに水を打つ打水に蝶美しき場末かな
打水に襷掛なる心意気会釈して打水の端を通りけり
打水をけふは神輿の男らに水打つや西日埃を舞ひ立たせ
蜻蛉も揚羽も来よと水を打つ夕焼を鎮める如く水を打つ
打水に刹那の虹を賜りぬ打水の最中一天かき曇り
打水の狙ひ定めし処かな桶柄杓なき世に水を打つホース
打水を固き大地が吸ひ込みぬ衰へし夏に最後の水を打つ



peace!



うちみず



リードエッセ

2023.7.9

2023 全然堂歳時記夏【香水】 14句

2023年7月21日発 7行2段12ポ桐10

封切や明日の映画も香水も香水や両肌脱ぎの夜会服
香水は枯草色に透き通り若き日の香水の香よ旧本社ビル
小癢なる香水瓶の小兵ども香水の匂ふが如き斜陽かな
反時計廻りに香水瓶を開け深窓に香水の香と黴の香と
剃刀は香水瓶のすぐそこに空つぽの香水瓶の行方かな
その人に香水の香のあらずとも消えかかる香水を追ふ捜査犬
香水の後を黒衣の揚羽蝶香水の瓶を融かして何作ろ



peace!



こうすい

毛
リードエッジ
2023.7.21

20 20 全然堂歳時記 夏

【素麺】

14 句

20 20 年 8 月 18 日 発 7 行 2 段 12 ポ 桐 9

素麺の入りし桐箱平べつた素麺を茹で上げる水冷ます水
素麺に願ひの糸の如き赤素麺の細く長くと流れ来る
素麺に緋くといふ事始 印度人も素麺する暑さかな
素麺の湯を沸かしつつ胡瓜揉み 素麺の細さを伊太利亜人が言ふ
素麺を翻弄すべき湯の滾り 素麺に紅一点のさくらんぼ
煮え滾る湯に素麺を突き立てて 素麺に箸休めなる西瓜かな
素麺を冷やす蛇口の露まみれ 夏瘦の素麺腹となりにけり



Ⓜ ニトミシ 20 20 8 18

2023 全然堂歳時記 夏 【昼寝】 20句

2023年7月30日発

10行2段12ボ 桐10

ふるさとに昼寝をせよと言はれけり うすぐらき蚊帳の昼寝を好みけり
きこしめて旅の昼寝の楽しさよ 昼寝子の指ひらくとも握るとも
人生の午後を楽しむ昼寝かな 二人してごろごろ昼寝してをりぬ
白桃を水に浮べて昼寝せり 板の間に張り付いてゐる昼寝の子
昼寝してわが再起動(リブート)を試みる ひるねしてみんなぐうぐうねましたと
吾輩と苦沙弥先生昼寝の凶 庭先に水着吹かるる昼寝かな
座布団を腹に乗せたる昼寝かな 鳴き通す蟬に昼寝はなかるべし
魂を滝に打たせて大昼寝 聳え立つ入道雲や昼寝覚
汗かかぬ齡さびしや昼寝して 昼寝覚この世が雨に煙りをる
母あらばその傍らに昼寝せん ウイーンに少年合唱団昼寝



peace!



ひるね

毛
ハード
2023
7
30

2019 全然堂歳時記夏

【豆飯】

20句

2019年6月8日発行

10行2段12ボ桐9

初夏の青を散らして豆ごはん 豆飯の豆の二つに割れたるも
このごろの夕餉明るし豆ごはん 豆飯の豆の偏る一処
赤飯は祝ぎ豆飯は睦まじく 豆飯の潰れし豆の緑なる
翌朝の分も炊きたる豆ごはん 卵焼黄色豆飯緑色
豆ごはん豆のごはんと口々に 豆飯を食ふや新茶もごくぐくと
豆飯を炊きたる母も嬉しさう 豆飯や後片付けも手際よく
うす塩の仄かに甘し豆ごはん 豆飯の後の七時のニュースかな
目に見えぬ塩の恩寵豆御飯朝に食ふ昨日の夜の豆ごはん
食べられる水玉模様豆御飯お代りの残り少なし豆ごはん
豆飯の豆の芯まで緑色母の日の母なき月日豆ごはん



まめめし

モートドコ

2019
6.8

2023 全然堂歳時記夏【夏休】 20句

2023年8月5日発 10行2段12ポ桐10

夏休み第一日目の出前夏休み父母も祖父母もみな若し
こんなにも早き日の出や夏休「夏休の友」と称して友ならず
朝顔と共に目覚めし夏休夏休み半ばの坊主頭刈る
夏休お代りをして褒めらるる変てこな塔の工作夏休
この赤き野球帽こそ夏休絵日記の超大作も夏休
どこへ行くにも立ち漕ぎの夏休夜更しを叱られてゐる夏休
オキシフル&ヨードチンキの夏休学校の恋しきころの夏休
保健室も音楽室も夏休いつまでも手を振る別れ夏休
美術館へ博物館へ夏休大の大人に子供だましの夏休
週明けの後もずいといと夏休ある日ふと秋風の吹く夏休

peace!



なつやすみ

夏ニートエッセンス
2023.08.05

2020 全然堂歳時記夏

【蟻】あり

20句

2020年6月27日発

10行2段12ポ桐9

白蟻は家に黒蟻は炎天下 蟻たかる白く解けゆくものの上
黙殺の蟻の過ぎ行く蟬の穴 あがきつつ邪悪な蟻をこぼしつつ
蟻の巢のてつぺんにある穴ひとつ 小分けして死を運び去る蟻の列
日の差さぬ蟻の巢に住み黒づくめ 蟻の列磁石を置けば曲るなり
付け替へて今朝あたらしき蟻の道 松に蟻その行先は知らねども
蟻の列鞭の如くに飴に伸ぶ 蟻の列にも殿のありぬべし
遠くまで死を嗅ぎ当てて蟻の列 蟻一つ浮んでゐたるバケツかな
数に物言はせて蟻の攀ぢ登る 蟻の列静かに夕日沈み行く
たかりをる小匙一杯分の蟻 公園に夜のブランコ夜の蟻
黒山の蟻に歓喜の声もなし 蟻の巢や王家の谷へ地下通路



モ ニードヒュン 2020 6 27

2023 全然堂歳時記夏【金魚】 20句

2023年8月19日発 10行2段12杓桐10

鯨より金魚小さく美しく土囊の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
金魚屋の後見怒る仁王尊弟悲し金魚すくひをかきまはし
花種の如き金魚の餌なりけり時計屋の時の流れに金魚玉
赤々と金魚の夢は何ならむかりそめの宇宙は丸し金魚玉
長生きの屑と云はれし金魚かな金魚鉢記念切手の発売日
蘭鑄や足腰弱き火星人ひらひらとフリルの硬き金魚鉢
金魚ゆらゆら母船を待つてゐるやうなぼたぼたと金魚を注ぐ金魚鉢
眠くても眠くなくても金魚の夜終戦の後の復興金魚玉
真夜中に浮んでゐるは金魚かな金魚田の美しかりし夕焼かな
死なせてはまた買ひ足せる金魚かな灯を消して金魚も金魚玉も消ゆ



peace!



金魚きんぎよ掬ひ、金魚売り
金魚玉、他を含む

モ ニードット 2023.8.19

2023 全然堂歳時記夏【毛虫】 20句

2023年5月7日発 10行2段12ボ桐10

神の意の天然色の毛虫かな庭木叩けば時雨の如く毛虫落つ
花よりも葉つば好みの毛虫なり割箸で毛虫の背ナを撫でてやる
重たしよ葉に群がりし毛虫ども割箸の先に毛虫がくねくねと
毛虫にも赤子がありてそも毛虫啞へられいまはの空を行く毛虫
見開きの毛虫図鑑と見比べてねつとりと踏み潰されし毛虫かな
毛虫にも黒毛・栗毛の血筋あり病める木に灸のごとく毛虫の火
地を這へる煙の如き毛虫かな人類にプロメテウスや毛虫焼く
芋虫に毛嫌ひされし毛虫なり沸騰の毛虫や遂に燃えあがる
派手派手の毛虫どこまでおぞましき亡者には飯もおさいも毛虫なり
あのころはたかが毛虫と侮りし毛虫とは似ても似つかぬものとなる



peace!



けむし

毛虫
2023
5.7

蟬の穴地下から掘つて来りけり 蟬穴に蟬の未来はなかりけり
暁闇や決死の蟬が穴を出づ 真つ黒な歲月残る蟬の穴
その辺の地べたにほると蟬の穴 墓穴にあらすよ蟬の生れし穴
伸び初めし蟻の列あり蟬も出づ 蟻の穴にぎやか蟬の穴孤独
庭掃けばまだ新しき蟬の穴 寂しくてビー玉詰めし蟬の穴
蟬の殻ぬるりと抜けて生れけり 羽化の蟬飛んで風化の蟬の穴
目も眩むほどの地上に出でし蟬 帰り来ぬ蟬を忘るる蟬の穴
産声の無き静かさに蟬生る 蟬の穴蟬を葬ふごと崩る
穴を出て色なき蟬が歩きをる 蟬の穴無用のものは崩れ易
飛び立ちし蟬を見送る蟬の穴 蟬すでに遠く果てたる蟬の穴



peace!



せみうまる
蟬の穴を含む

モ
ハードエフジ
2023.8.13

2023 全然堂歳時記夏【螢】 20句

2023年7月13日発 10行2段12ボ桐10

螢火は螢の闇の中にこそほうたるの余命を刻む点滅ぞ
螢来よ小学校は真の闇晩年の光尊し螢の夜
冠に二つ火のある螢かな螢火と庭のプールの小舟かな
螢火の飛んで光の速さかな幼子を乗せて何処へ螢舟
螢火を裸火とこそ言ひつべし半壊の旧地下鉄に螢舞ふ
雨に来て葉先に滲む螢かな終列車彼方に消ゆる螢かな
その中に燻る螢ありにけり死螢を金魚の墓の隣りへと
なれそめの十五十六螢の夜連絡船は磁気嵐とや螢の夜
戦にも恋にも果つる螢かな弓なりにミサイルの飛ぶ螢の夜
降り出して恋の螢の行方かな螢火の歓喜観音様来る



peace!



ほたる

モ
ハードエッジ

2023
7.13

2023 全然堂歳時記夏【若葉】 20句

2023年7月7日発 10行2段12ボ桐10

若葉とは日に透きとほる薄みどり 若葉して水の音さへ城下町
青春の光と影と 若葉風 郊外の若葉の町の古本屋
若葉して光合成の出番なり ぶらんこに子らを遊ばす若葉かな
若葉していよいよ小枝のゆれ止まず 牛鳴くや若葉の風に首を伸べ
鳥の餌のこれつぽつちよ朝若葉 老木の自ら励む若葉かな
週明けの駅前若葉まぶしけれ ひと雨に歩道の濡るる若葉かな
良き風と若葉の道を共にして 青空も見えて若葉の雨宿り
若葉して早も摘まるる茶の木かな 本棚を見てゐて飽かず若葉の夜
黒き枝も見えて若葉の木なりけり 石鯀を撫でては減らす若葉の夜
若葉して滝の飛沫を弾くなり 既に花終へし木もある若葉かな



peace!



わかば

モ
ハードエッジ
2023
7/7

2021 全然堂歳時記 夏【紫陽花】

20句

2021年6月30日発 10行2段12ポ桐9

紫陽花が朝日のごとく卓の上 紫陽花やズボンの裾がびしよびしよに
紫陽花や目に見えねども低気圧 じゃぶじゃぶと長靴楽し濃紫陽花
紫陽花は気圧の谷に咲くといふ 増水の川の濁流濃紫陽花
明け方の霧の中なる濃紫陽花 紫陽花の遠き憧れ虹かかる
舟が消え湖が消え濃紫陽花 湯あがりの宿の籐椅子濃紫陽花
紫陽花にこの曇天のいつまでも 薬缶は金に紫陽花は紫に
紫陽花や砂利敷き詰めて変電所 ずつしりと并重し濃紫陽花
紫陽花や雨戸を叩く雨の音 紫陽花やハムを土台の目玉焼
水を得ていま紫陽花の濃紫 風呂に沸かす水の一トン濃紫陽花
紫陽花も金魚の墓も雨の中 紫陽花の見頃がありてそれも過ぎ



あじさい

2021年6月30日
2021年6月30日
30

ハードエッジの夏2017

開発素句報特番 20句+2

2017年8月27日

神々の力任せの雲の峰夏草と白線のある駐車場
日本の海をぐるりと雲の峰夏草を刈りたる後の草いきれ
赤道の箍の外れし暑さかななすと云へば那須与一ぞ茄子の花
炎帝や入道雲を従へてああああとサイレンの鳴る夕焼かな
炎帝の不興の雨となりにけり夕立に洗ひたてたる夕焼かな
水底に暑さ忘るる豆腐かなもう少し赤を強くと夕焼守
食べ盛り遊び盛りの涼しさよ夕焼に誰か故郷を思はざる
お揃ひのすでに嬉しき夏の旅安らかや日は夕焼に包まれて
赤々と金魚の夢は何ならむ神々も家路を急ぐ夕焼かな
忘れし水鉄砲や水の上火も人も裸なりけり夜の海

都市いくつ灰となりたる終戦日

生き延びし女子供や終戦日

毛

ハードエッジ

2017
8.27